

令和6年度 第1回霧島市子ども・子育て会議（会議要旨）

開催日時		令和6年5月30日（木）18:30～20:40		
開催場所		霧島市役所別館 4階 中会議室		
出席者	委員	呉屋 奈都子、山口 義幸、若松 忠洋、江川 さおり、 田間 美沙緒、前野 二美、新田 瑠璃子、中元 由紀代、 小野 由美子、山尾 実礼、白木川 拓巳、山下 真奈美、 田中 紗弥佳		
	事務局	有村 保健福祉部長、宮田 保健福祉政策課長、大浦 同課こども政策室長、小玉 同課同室主任主事、安増 同課同室主事、村岡 子育て支援課長兼こどもセンタ ー所長、小橋 同課主幹兼子ども・子育てグループ 長、種子田 同課同グループサブリーダー、中村 同 課保育・幼稚園グループ長 鹿児島みらい研究所 小久保主任研究員		
欠席者		西川 純子、高倉 哲也		
公開・一部非公開又は非公開の別		公開	傍聴人数	0人
<p>会次第</p> <p>1 開会</p> <p>2 保健福祉部長あいさつ</p> <p>3 委員紹介</p> <p>4 協議等</p> <p>（1）霧島市子ども・子育て会議の役割</p> <p>（2）会長・副会長の選出</p> <p>（3）（仮称）第3期霧島市子ども・子育て支援事業計画の概要説明と計画策定スケジュールについて</p> <p>（4）子ども・子育て支援のためのニーズ調査の取組状況報告について</p> <p>（5）子どもの生活に関するアンケート調査の取組状況報告について</p> <p>（6）教育・保育施設等調査の取組状況報告について</p> <p>（7）その他</p> <p>4 閉 会</p>				

【会議要旨】

1 開会

2 保健福祉部長あいさつ

3 委員紹介

4 協議等

(1) 霧島市子ども・子育て会議の役割

・【資料1】を用いて、事務局から説明を行う。

(2) 会長・副会長の選出

・会長に呉屋 奈都子氏、副会長に若松 忠洋氏が選出され、全会一致で承認される。

(3) (仮称) 第3期霧島市子ども・子育て支援事業計画の概要説明と計画策定スケジュールについて

・【資料2】を用いて、事務局から説明を行う。

(4) 子ども・子育て支援のためのニーズ調査の取組状況報告について

・【資料3】、【霧島市子ども・子育て支援のためのニーズ調査結果報告書(概要版)】(以下【ニーズ調査(概要版)】とする。)を用いて、事務局、鹿児島みらい研究所から説明を行う。

・全委員に、意見を求める。

主な意見等

・【ニーズ調査(概要版)】17、18ページでこども館を利用したことがないと回答した方が多い。

・子供たちが自宅の近くで安心して遊べるような公園はいっぱいあると思うが、ニーズ調査の中で安心して遊べないという答えになっている。この意見を今後の計画に反映させてほしい。

・幼稚園、保育園、認定こども園において、人材不足が喫緊の課題となっている。職員に合った利用定員を設定して、運営している施設もある。【ニーズ調査(概要版)】12ページの結果だけを見ると、利用のニーズもあるが、人材不足等の現状も加味した上で、慎重に判断してほしい。

→保育園、認定こども園に行っていない方の回答も含まれているため、ニーズが多くみえる。現在の少子化を踏まえ、子供の数に対して、施設がニーズに見合っているかどうか十分に考えながら、今後の量の見込みという部分で考えていきたい。

・【ニーズ調査(概要版)】9ページの育休について、取りづらいとの回答があるが、市として育休について、企業にどのようにはたらきかけているのか。

→商工会議所等関係機関と連携をとりながら、企業等への働きかけや、こういった施策が盛り込めるのか、検討したい。

・回答率が低い。病院の待ち時間で回答ができるよう QR コードを病院等の施設に提示する等の工夫をしないと、本当のニーズは見いだせないと考える。

→無作為抽出で実施しているため、全員のニーズは聞き取れていない。幅広い意見を取り入れるため、骨子案作成後にパブリックコメントを実施する予定である。

・実際に回答したが、選択肢について答えにくい箇所があったため、時代に合わせて内容を変えてもらおうと答えやすい。

・就職先について、企業主導型保育事業所を検討している学生が多い。人材確保のためにも、学生に認可、認可外等の説明をしっかりとした上で就職先を検討してもらいたい。

・人材確保の解消のため、保育士になりたい人向けの学校の奨学金制度があればよい。

・【ニーズ調査（概要版）】11 ページの施設で、屋外施設がこども館のみ挙げているが、新たな屋外施設について、計画があるのか。

→親子が安心して遊べる屋外施設が、こういったものなのかも含め、検討したい。

・【ニーズ調査（概要版）】21 ページの放課後の過ごし方について、休暇期間中の利用希望が多い。保護者から、普段学童には行っていないが、夏休みだけ利用できないかという問い合わせがある。この調査で長期休みのみ使いたい人の割合が知れたらよかった。

→放課後児童クラブを含めた子供たちの預かりのあり方は、近年でも色々なところで話題となっている。国が示す居場所づくりの指針も踏まえ、今回の計画策定を進めていく。

・新しい施設を建設するにはコストがかかるため、既存の施設を利用できないか。学校が長期休暇のとき、教室を活用することはできないのか。

→教育委員会を含めた関係部長が出席する庁内検討会で検討していく。

・働き方改革で労働環境が整っている中、週6日預けられている子どもがいる。

家庭の中でも、子どもを中心において計画を作っていかなければならない。

→子どもが家族と過ごす時間は、一番大事な時間である。こども家庭庁の名前の由来としても、まず家庭で子どもを大事に育て、それを社会全体でサポートしていくという意味もある。家庭の役割を踏まえながら、子どもを中心とした計画を策定・検討していく。

・【ニーズ調査（概要版）】28 ページの情報収集の結果について、「霧島市広報誌」や「子育てガイドブックぐんぐんの木」と回答した人が少ない。病院の待合室や公民館に置く等、情報発信の仕方に工夫が必要。

→周知の方法、広報の仕方について今後検討する。

#### (5) 子どもの生活に関するアンケート調査の取組状況報告について

・【資料4】を用いて、事務局から説明を行う。

・全委員に、意見を求める。

#### 主な意見等

・アンケートの対象者は、小学5年生と中学2年生の全員が対象か。

→全員が対象である。

・実施方法として、Web 回答ではない理由はなにか。

→Web 回答よりも、紙ベースで回答してもらう方の回収率が良いため。

#### (6) 教育・保育施設等調査の取組状況報告について

・【資料5】を用いて、事務局から説明を行う。

・全委員に、意見を求める。

#### 主な意見等

特になし

#### (7) その他

その他 なし

#### 5 閉会